

○東葛飾地域はナシの大産地であるが、**老木化とそれに伴う生産力の低下が課題**。

○安定生産を目指して、**改植の推進と早期成園化のための新技術「ジョイント仕立て栽培」の導入**に取り組んだ。

○若手農業者や女性農業者など**多様な担い手を対象**とした講習会を開催。

○その結果、主要品種である“幸水”の**改植面積は累計で45ha増加**した。

○**ジョイント仕立て栽培の導入者は9名**になり、今後も増える見込み。

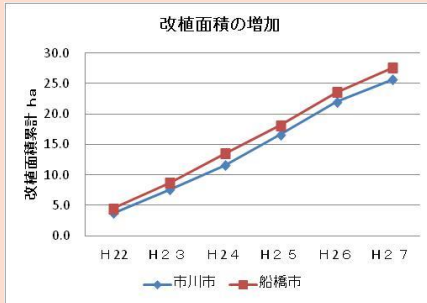
具体的な成果

1 幸水の改植面積の拡大

■主要品種である幸水の改植面積

H22年度から27年度にかけて

45.1ha増加



■早期成園化技術の習得実践者数

H22年度 6名 → 27年度 24名

2 新技術「ナシ樹体ジョイント仕立て栽培」の普及

■ジョイント仕立て栽培導入者

23年度 1名

→27年度 9名



ジョイント仕立て栽培ほ場

3 生産者の意欲向上

■若い後継者や女性農業者が積極的に行動するようになった。

■新技術の導入をきっかけに面積拡大や雇用導入を視野に入れる生産者が現れた。

普及指導員の活動

平成23年～27年

■後継者対象の農業経営体育成セミナーや、指導農業士・農業者で組織する研究会を対象に研修会を実施。

■24年に女性農業者を対象とした基礎的な研修を開始。

■26年に**早期成園化のポスターを作成・全戸配布**。

平成25年～26年

■新規就農者向けの「農業経営体育成セミナー」修了生に対し、更なる能力向上を目指して**スキルアップ研修を開催**。

平成25年～27年

■25年にジョイント仕立て栽培の先行事例を調査

■26年にジョイント仕立て栽培実証ほを設置し27年に**現地検討会や研修会を開催**。

普及指導員だからできたこと

・**対象の技術習得レベルにあわせた各種研修会**を実施することで、効果的に知識や技術の向上を図ることができた。

・新技術の導入推進にあたっては、**先行事例の紹介や実証ほを設置**し農業者が自らの経営に適した技術導入ができるよう促した。

都市地域におけるナシ生産の振興

－ ナシ園の改植及び新技術の導入支援 －

活動期間：平成 23～27 年度

1. 取組の背景

東葛飾地域の市川市及び船橋市は県内栽培面積の 3 割弱を占めるナシの産地である。しかし、老木化とそれに伴う生産力の減少が課題となっている。平成 19 年に東葛飾農業事務所管内全域を対象として実施したアンケート調査（回答数 554 名）では、栽培面積の半分以上を占める“幸水”において老木率が 36%と高く、生産性の低下が懸念されていた。そのため、農業事務所では改植を推進してきたが、平成 26 年度に実施した同様の調査（回答数 454 名、回収率 73%）においても、幸水老木率は 29%と、改植は進んでいるものの依然として高いという現状にある。

また、早期成園化や省力化に繋がるとして全国で普及が進んでいる新技術「ジョイント仕立て」は、改植時の導入が期待されているが、管内では船橋市の 1 名を除き、平成 24 年度まで本格的な導入事例がなかった。このような背景から農業事務所では生産者や関係機関と連携し、高い生産性をもち、多様な担い手が活躍できるような産地の維持・発展のため、改植及び早期成園化のための新技術の導入推進に取り組んだ。

※早期成園化…定植後、早く成木並みの収量を得る園にすること

2. 活動内容

(1) 慣行栽培における早期成園化技術の標準化による改植の推進

ア 若木の基本的な管理に関する情報提供

早期成園化において重要な時期である定植後 3 年間の管理を網羅したポスターを県果樹連等と連携して作成し、管内の生産者全戸に配布した（H26）。ポスターでは、各経営体の労力等を考慮して、基本技術と応用技術を併記し、写真や図を中心に視覚的に分かりやすくするなど、さまざまな工夫を盛り込んだ（図 1）。

イ 改植に関する技術指導

(ア) 関係機関と連携した講習会の実施

ポスターに記載した技術を中心に、抜根、定植、新梢管理、整枝剪定、改植計画の立て方等、改植に関して総合的な情報提供と指導を行った。講習会の実施にあたっては、市及び地域の J A、生産者と企画・運営について密に連携し、平成 27 年度は市川市で 7 回、船橋市で 9 回実

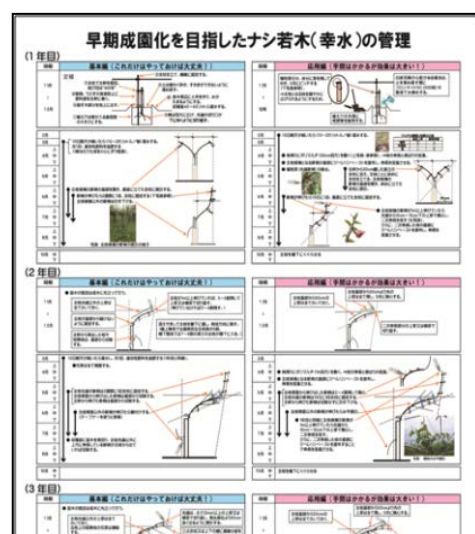


図 1 若木管理のポスター（A 1 サイズ）
（左が基本、右が応用の管理）

施した。

(イ) 多様な担い手の養成を意識した講習会の実施

上記に加え、広く技術の浸透を図り、安定的に改植を推進することを目的に、多様な担い手を対象とした各種講習会を実施した（表1）。

表1 平成23～27年度における多様な担い手を対象とした講習会

講習名	対象者	実施年度	回数	備考
農業経営体育成セミナー	就農後まもない後継者	23～27	年3～4回	継続中
スキルアップセミナー	概ね40歳未満の後継者	25～26	計6回	
さわやか女性セミナー	女性農業者	24～27	年5～6回	継続中
葛南梨研究同志会※主催講習会	経営主及び後継者	23～26	計6回	継続中

※指導農業者・農業者で構成されるなしの研究組織。

(2) 新技術「なし樹体ジョイント仕立て」の普及

ア 先行事例調査

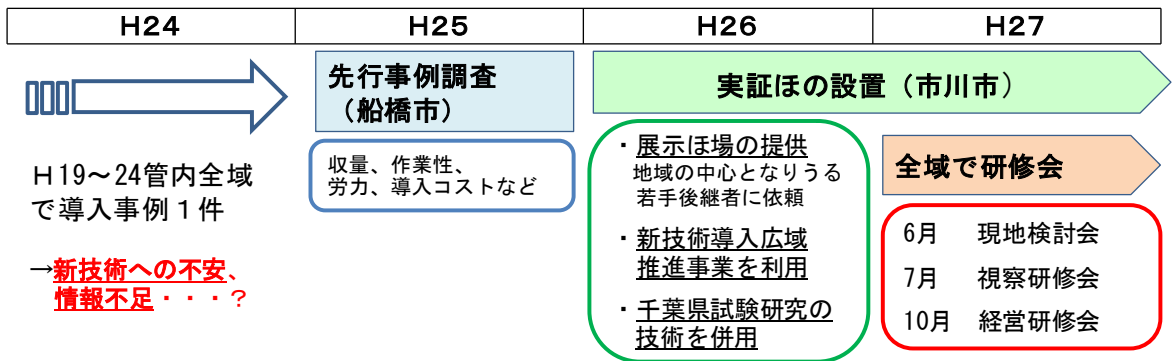
新技術の普及性を検討するため、船橋市の先行的導入者のほ場で各種作業や収量等の調査を行った。調査結果は生産者へ情報提供した。

イ ジョイント仕立て技術実証展示ほの設置

技術の実証および導入意向者が情報交換と技術交流を行う場を設定することを目的として、市川市に展示ほを設置した。

ウ 段階的な研修会の実施

上記ア、イの結果を受けて、導入を志向する生産者が現れてきたため、平成27年には、展示ほ場での現地検討会と他県での先進地視察を実施し、ジョイント仕立ての技術とその実態を紹介した。また、後継者が導入を志向する傾向が強かったことから、導入の決定権を持つ経営主にこの技術の利点と課題を伝えることを目的に、ジョイント仕立ての経営研修会を開催した。



3. 具体的な成果

(1) 幸水の改植面積の増大

改植推進に関する活動により、主要品種である幸水の改植面積は平成22年度から27年度にかけて累計で45.1ha増加した。また、幅広く担い手に働き

かけた結果、若い後継者やこれまで補助的な役割が中心だった女性農業者において、改植や経営改善に対する意欲的な発言や行動がみられるようになってきた。

(2) 新技術「なし樹体ジョイント仕立て」の普及

ジョイント仕立て導入者は平成 27 年度には市川市と船橋市併せて、9 名に増加した。さらに平成 28 年度には少なくとも 3 名以上が導入を決めている。この中には、新技術導入をきっかけとして栽培面積を増やし、将来的に面積拡大、雇用導入等を志向する後継者も現れてきている。

4. 農家等からの評価・コメント（市川市 ナシ農家M氏）

ジョイント仕立て栽培は導入初期に管理が大変なところもあったが、明らかに省力化が進んだ。展示ほとして新技術の実証をしたことで、導入を決めた若手農業者が現れるなどジョイント仕立て栽培は徐々に広がりつつある。

5. 普及指導員のコメント（東葛飾農業事務所 普及指導員 井上雄樹）

改植の推進や新技術の導入は、単に生産力の向上というだけではなく、それをきっかけとして、これからの農業を担う農業者の活動の活性化や面積拡大等、新たな取り組みに対する意欲の向上につながっているという感触を得た。

6. 現状・今後の展開等

(1) 持続的な産地形成のための担い手育成

これまでの活動の結果、平成 28 年度には船橋市において研究組織の若返りが図られ、市川市で女性の勉強会が開催されるなど、新しい動きがみられる。そこで、今後は次世代の担い手が新しいことに挑戦しやすい“場”づくりを次の目標として活動していく。

(2) 新技術導入による効率的な生産体系の確立

新技術の先行的導入者が互いに連携できるような状況を構築するとともに、定植後、収量確保までの技術的課題を解決して地域のモデルケースとなるよう支援していく。